

# 新司法試験問題検討会（必須科目）の前期検討事項について

平成16年11月12日

司法試験委員会

## 1 新司法試験問題検討会（必須科目）による検討

新司法試験問題検討会（必須科目）は、平成16年4月に発足後、活動を前期（同年4月から10月まで）、後期（同年11月から平成17年3月まで）に分け、前期の検討事項として、新司法試験短答式試験及び論文式試験における具体的な出題のイメージ（サンプル問題）の検討を行い、また、科目の範囲、出題形式等の検討を行ってきた。

この度、新司法試験問題検討会（必須科目）は、前期検討事項についての検討結果を取りまとめるとともに、新司法試験短答式試験及び論文式試験のサンプル問題を作成し、これらを司法試験委員会に提出した。

## 2 検討結果の内容

検討結果は、大きく分けて、科目の範囲、試験時間、問題数及び問題別配点等について述べた「前期検討事項の検討結果について（報告）」及びサンプル問題の2部から成る。そして、サンプル問題は、公法系科目、民事系科目及び刑事系科目の順に、各科目ごとに短答式試験のサンプル問題及び論文式試験のサンプル問題の順で構成されている。

## 3 サンプル問題の内容

公法系科目及び刑事系科目については、科目の冒頭に、「科目全般について」と題する短答式試験及び論文式試験の両者に共通する科目全般に関する説明が掲げられている。

続く【短答式試験問題】の項目では、いずれの科目も、サンプル問題に先立ち、「短答式試験問題について」と題する短答式試験全般にわたる説明が掲載されている。短答式サンプル問題の問題数は、公法系科目が10問（解答欄数は49個）、民事系科目が22問（解答欄数は22個）及び刑事系科目が12問（解答欄数は24個）である。各科目とも、各サンプル問題の後には正解を記載し、民事系科目及び刑事系科目については、正解の後に、各問ごとの出題趣旨が簡潔に記載されている。なお、公法系科目については、「短答式試験問題について」の中で、短答式サンプル問題全体にわたる出題趣旨が記載されているため、各問ごとの出題趣旨は記載されていない。

その次に【論文式試験問題】の項目が続き、公法系科目については、冒頭に「論文式試験問題について」と題する論文式試験全般にわたる説明が掲載されている。論文式試験のサンプル問題は、各科目とも2問である。ただし、民事系科目の場合、200点配点のいわゆる大大問は、民法に関する分野と民事訴訟法に関する分野にまたがる問題であり、100点配点の大問は、商法に関する分野の問題である。

いずれの科目も、各問題の末尾に、出題趣旨が記載されている。

#### 4 注意点

いずれの科目についても、今回、サンプル問題として提示された出題・解答形式のみにこだわるものではなく、今後さらに、新たな出題・解答形式の問題が検討される可能性があるし、短答式試験問題の並べ方についても、本試験では、法律分野ごとのまとまりで並べられるとは限らない。また、民事系科目における大大問についても、今回提示されたような、民法に関する分野と民事訴訟法に関する分野にまたがる問題だけでなく、他のヴァリエーションによる出題も予定されている。